

播州尾上相生古松之由来

抑當社 肅一乃神廟より往昔
 人皇十五代神功皇后神徳を依りて
 三韓神征伐あり御凱陣のし記
 佐者大明神社と仰しとありあは
 の小松ありて同い 此洲の南に
 孫よを教ふる清林お學集を辨
 を養ひ給ひ給ふのありしと
 松の更ニ松と植まらしむは
 一垂のわらわらして大樹となり連理
 の枝をまきと是則赤穂の神と紫包
 ありしれはもりの社傳と有之
 其後人皇十六代醍醐天皇 延喜
 三年此春肥後周阿蘇を神皇成
 と浴乃時をたさるしつゝ相生松と
 ありぬるにいつともや 若人史婦
 あり相生松の由来あり 物語
 ありいふあり人ぞく身色はくまて田
 耐き津の國住吉の若生を頼む
 け下の人を神史婦をて七百歳を
 持たせしめ思枕とてをな成
 奇異湯柳の石を置くと跡を致
 して神明とて今の本のま居る也
 事ありてな成今津の跡より本松の
 耐明神船中未現故し跡は海上松
 中冥窟をともい風波をまづめ
 守り神とて人し神徳ありて不
 依るい御神と祀魂ふといさる事
 あり 社傳とあり右の松は太閤
 秀吉公三木城攻め時軍兵切死
 より立ちたれとあり今の松三代目
 相生松なり



雄松茂長
 伏し三ヶ所
 地ニツク此松
 長サ六十間余

雄松一丈廿立
 登りニタト成
 辰巳日行

